

**令和7年度**

**運営に関する計画**

**最終評価**

**令和8年3月**

**大阪市立大桐小学校**

## 大阪市立大桐小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

- 大桐小学校・大道南小学校・大桐中学校は、「人にやさしい学校」を共通の目標として、長年の間連携して取り組んでいる。友だちを大切に作るやさしい心が育ちつつある。一方で、令和3年度の児童アンケートや同年度学力経年調査の児童質問紙の結果から、「自分には、良いところがあると思いますか。」に対する設問に対して、肯定的な回答をする児童の割合は低く、本校の大きな課題となっていた。令和4年度より自己肯定感を高める活動を、学年や学級等で力を入れて取り組んできたことで、同調査における自己肯定感に関する結果は毎年向上している。令和6年度は80%を超えることができた。自己肯定感を育むことは、児童が様々な学習や活動に積極的に取り組んだり、前向きに生きる力を醸成したりしていくうえで、大切な要素と考える。今後も、あらゆる教育活動の中で成功体験を積む場を設けたり、児童一人ひとりが、他者との違いを良さと捉えられるような活動を工夫したりしていく必要がある。
- 地域の方々による子どもの見守り活動は盛んで、また保護者による安全当番の活動もある。それでも、遅刻児童や不登校児童がなくなるのが現状である。担任や担当が、個別に家庭訪問をしたり、区役所子育て支援室等と連携したりすることで遅刻児童や不登校児童の改善の割合は、増加している。しかし、不登校の児童の数はまだ多い。引き続き該当児童の保護者や関係諸機関との連携を密にするとともに、ICT機器を効果的に活用するなどして、引き続き対応策を講じ改善につなげる。また、魅力ある学校行事や学年や学級のイベントを積極的に設定するなどして、登校のきっかけとなる場を工夫する。
- 学力向上は、本校の大きな課題となっていたが、令和6年度学力経年調査の学力に関する結果は、全教科において市平均を上回る学年があるなど成果も見られている。しかし、2学年においては、市平均を下回り、その内1学年は各教科2から4ポイント程度、市平均より下回る結果であった。また、令和6年度の小学校学力経年調査における「学校で出された宿題以外に、自分で計画を立てて学習(予習・復習などを)していますか」と「読書は好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、3学年ほとんどが前年度より低い結果となり課題が残った。
- 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査(第5学年)の結果については、多くの種目で市平均を、そのうちいくつかは全国平均を上回った。普段の体育の授業の運動量の確保や駆け足タイムを実施したことや、休み時間の「みんな遊び」などで外遊びの機会を増やすなどした成果であると捉えている。運動に関する児童の興味・関心がさらに高まるような工夫を積み重ねていきたい。
- 「1人1台端末で理解を深められた」「1人1台端末での学習にすすんで取り組んだ」という質問に対する回答が令和5年度と同じまたは微増である。端末を扱う学習が児童にとって当たり前のこととして定着したことが伺える。今後は、デジタルドリルの問題を解く、インターネットで調べるといったことだけではなく、端末を使ってどのような学習活動ができるか教材研究を深め、児童の知的好奇心や探求心を刺激できるようにしたい。働き方改革については、令和6年度に余剰時数を大幅に超えて実施している授業時間を見直し、カリキュラムを再構築して取り組んだ。また、地道な業務効率化と会議の精選を実施することができた。教職員の時間外勤務も順調に改善している。今後も継続して進めていきたい。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和4年度～令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を毎年90%以上にする。  
【R4 81.8% R5:79.1% R6:75.0%】【R7:83.6%】○
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より毎年減少させる。  
【R4:2.9%(21人/727人)R5:3.5%(23人/660人)R6:3.5%(22人/631人)】【R7:4.6%(27人/581人)】▲
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を毎年増加させる。【R4:31.3% R5:53.3% R6:55.6%】【R7:35.7%】▲
- 令和4年度～令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思う」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。  
【R4:80.5% R5:83.0% R6:84.4%】【R7:84.6%】○

### 【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。  
【R4:33.7% R5:32.1% R6:35.6%】【R7:42.2%】○
- 令和4年度～令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。  
＜国語:R4= 現6年 96.4%＞  
＜国語:R5= 現5年 95.9% 現6年103.4%＞  
＜国語:R6=現4年 99.3% 現5年 97.6% 現6年103.2%＞  
＜国語:R7=現4年 99.3%→ 現5年 99.2%↑ 現6年102.6%↓＞  
  
＜算数:R4= 現6年 96.3%＞  
＜算数:R5= 現5年 96.3% 現6年102.7%＞  
＜算数:R6=現4年 99.7% 現5年 95.6% 現6年101.9%＞  
＜算数:R7=現4年101.1%↑ 現5年 97.3%↑ 現6年103.0%↑＞
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的な「好き」「どちらかというが好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。  
【R4:75.8% R5:78.4% R6:84.9%】【R7:86.7%】○
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的な「好き」「どちらかというが好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。  
【R4:70.7% R5:76.2% R6:69.8%】【R7:68.2%】▲
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を前年度以上にする。【R4:68.9% R5:70.4% R6:68.1%】【R7:67.5%】▲
- 令和7年度の全国学力学習状況調査における平均正答率を、全国平均以上にする。  
【R4:89.3% R5:94.1% R6:100.4%】【R7:97.8%】▲

### 【学びを支える教育環境の充実】

<教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進>

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。

【学習者用端末 日別活用率の平均 R5:69.6% R6:77.3%】 **【R7:79.3%】** ○

- 令和7年度の本校児童アンケート「クロームブックを使う学習で、理解を深めることができましたか。」の項目に対して、肯定的な回答の割合を80%以上にする。

【R4=90.9% R5:84.8% R6:84.8%】 **【R7:86.1%】** ○

- 令和7年度の本校児童アンケート「クロームブックを使う学習に、すすんで取り組むことができましたか。」の項目に対して、肯定的な回答の割合を80%以上にする。

【R4=86.7% R5:80.7% R6:81.8%】 **【R7:84.0%】** ○

<人材の確保・育成としなやかな組織づくり>

- ゆとりの日を週に1回設定実施する。○

- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を70%以上にする。

【R4:56.8% R5:69.1% R6:86.1%】 ○ **【R7:77.1%】** ▲

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。

【R4 81.8% R5:79.1% R6:75.0%】 **【R7:83.6%】** ○

- 令和7年度の年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より毎年減少させる。

【R4:2.9%(21人/727人)R5:3.5%(23人/660人)R6:3.5%(22人/631人)】 **【R7:4.6%(27人/581人)】** ▲

- 令和7年度の年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を毎年増加させる。

【R4:31.3% R5:53.3% R6:55.6%】 **【R7:35.7%】** ▲

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を前年度以上にする。

【R4:80.5% R5:83.0% R6:84.4%】 **【R7:84.6%】** ○

- 令和7年度末の本校児童アンケートで、「学校へ行くのは楽しいですか」の肯定的な回答の割合を、前年度以上にする。

【R4:88.0% R5:88.6% R6:88.4%】 **【R7:89.0%】** ○

- 令和7年度末の本校児童アンケートで、「すすんであいさつをしていますか」の肯定的な回答の割合を、前年度以上にする。

【R3:84.0% R4:84.0% R5:84.6% R6:86.9%】 **【R7:85.7%】** ▲

- 令和7年度の年度末の校内調査において、遅刻の割合を前年度より少なくする。

【R4:2.8% R5:(1月末時点)2.0% R6:(1月末時点)2.2%】 **【R7:2.8%】** ▲

- 令和7年度末の本校児童アンケートで「早寝・早起き・朝ごはんを食べることができていますか」の肯定的な回答の割合を前年度以上にする。

【R4:79.5% R5:79.9% R6:76.8%】 **【R7:79.6%】** ○

- 令和7年度末の本校アンケートで「スマホやゲームについて、家でのルールを守れていますか」の肯定的な回答の割合を、保護者・児童ともに前年度以上にする。

【R4:保護者 65%児童 87%】【R5:保護者 68.3%児童 79.9%】【R6:保護者 63.7%児童 86.7%】

**【R7:保護者 60.8% ↓ 児童 89.4% ↑】**

○ 令和7年度末の本校児童アンケートで、「友だちの気持ちを考え、良いところを見つけることができましたか」の肯定的な回答の割合を、全学年で前年度以上にする。

【R3:81.2% R4:91.3% R5:91.6% R6:90.8%】 【R7:92.0%】 ○

○ 令和7年度末の本校保護者アンケートで、「学校は子どもが助け合って活動できるよう指導している」の肯定的な回答の割合を、前年度以上にする。

【R3:88.4% R4:87.1% R5:85.6% R6:83.1%】 【R7:80.8%】 ▲

○ 令和7年度末の本校児童アンケートで、「自分には良いところがあると思いますか」の肯定的な回答の割合を、前年度以上にする。【R3:61.0% R4:75.7% R5:77.8% R6:80.3%】 【R7:81.0%】 ○

### 【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○ 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。【R4:33.7% R5:32.1% R6:35.6%】 【R7:42.2%】 ○

○ 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

<国語:R4= 現6年 96.4%>  
<国語:R5= 現5年 95.9% 現6年103.4%>  
<国語:R6=現4年 99.3% 現5年 97.6% 現6年103.2%>  
<国語:R7=現4年 99.3% → 現5年 99.2% ↑ 現6年102.6% ↓>

<算数:R4= 現6年 96.3%>  
<算数:R5= 現5年 96.3% 現6年102.7%>  
<算数:R6=現4年 99.7% 現5年 95.6% 現6年101.9%>  
<算数:R7=現4年101.1% ↑ 現5年 97.3% ↑ 現6年103.0% ↑>

○ 令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的な「好き」「どちらかというと好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。

【R4:75.8% R5:78.4% R6:84.9%】 【R7:86.7%】 ○

○ 令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的な「好き」「どちらかというと好き」と回答する児童の割合を前年度以上にする。

【R4:70.7% R5:76.2% R6:69.8%】 【R7:68.2%】 ▲

○ 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を前年度以上にする。

【R4:68.9% R5:70.4% R6:68.1%】 【R7:67.5%】 ▲

○ 令和7年度の全国学力学習状況調査における平均正答率の対全国比を、前年度以上にする。

【R4:89.3% R5:94.1% R6:100.4%】 【R7:97.8%】 ▲

○ 令和7年度の学力経年調査・国語において、「書く能力」領域の正答率を同一母集団で比較し、いずれの学年も昨年度以上か大阪市平均を上回るようにする。

<R4= 現6年33.3% (市52.1%)>  
<R5= 現5年41.4% (市57.7%) 現6年76.2% (市49.5%)>  
<R6=現4年60.2% (市58.4%) 現5年59.7% (市66.4%) 現6年77.6% (市68.0%)>  
<R7=現4年75.8% (市71.5%) ↑ 現5年63.3% (市65.0%) ↑ 現6年70.8% (市61.1%) ↓>

○ 令和7年度の学力経年調査・算数において、「数と計算」領域の正答率を大阪市平均と比較し、前年度以上か大阪市平均を上回るようにする。

<大阪市平均との差:R4= 現6年-9.5>  
<大阪市平均との差:R5= 現5年 6.9 現6年 7.2>  
<大阪市平均との差:R6=現4年-6.0 現5年-7.5 現6年 6.5>  
<大阪市平均との差:R7=現4年 4.0 ↑ 現5年-4.9 ↑ 現6年 6.5 →>

○ 令和7年度末の本校児童アンケートで、「授業はわかりやすく楽しいですか」の肯定的な回答の割合を前年度より向上させる。

【R2:84.9% R3:84.0% R4:89.5% R5:87.3% R6:89.3%】 【R7:88.0%】 ▲

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校で出された宿題以外に、自分で計画を立てて学習（予習・復習などを）していますか」と「読書は好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

宿題以外に学習 <R4= 現6年35.7%>  
 <R5= 現5年49.5% 現6年34.6%>  
 <R6=現4年54.7% 現5年32.6% 現6年30.1%>  
 <R7=現4年37.3%↓ 現5年30.4%↓ 現6年25.2%↓>

読書 <R4= 現6年79.4%>  
 <R5= 現5年73.1% 現6年76.6%>  
 <R6=現4年57.7% 現5年69.8% 現6年67.0%>  
 <R7=現4年59.6%↑ 現5年59.5%↓ 現6年54.4%↓>

- 令和7年度末の本校児童アンケートで、「楽しんで運動したり、外で元気に遊んだりしていますか」の肯定的な回答の割合を、全学年で前年度以上にする。

【R4:87.2% R5:87.3% R6:80.3%】 【R7:81.2%】 ○

- 令和7年度末の本校児童アンケートで、「給食前や休み時間、そうじの後の手洗いをすすんでしていますか」の最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を、前年度以上にする。

【R3:71.3% R4:68.5% R5:62.0% R6:66.5%】 【R7:66.7%】 ○

- 令和7年度末の本校児童アンケートで、「給食は自分の食べられる量を楽しく食べていますか」の肯定的な回答の割合を、85%以上にする。

（【R3:85.6% R4:87% R5:84.8%】 ← 「すききらいをしないで給食を食べていますか」

【R6:92.2%】 【R7:93.3%】 ○

#### 【学びを支える教育環境の充実】

#### <教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進>

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業時数の75%以上にする。

【学習者用端末 日別活用率の平均 R5:69.6% R6:77.3%】 【R7:79.3%】 ○

- 令和7年度の本校児童アンケート「クロームブックを使う学習で、理解を深めることができましたか。」の項目に対して、肯定的な回答の割合を前年度以上にする。

【R4:90.9% R5:84.8% R6:84.8%】 【R7:86.1%】 ○

- 令和7年度の本校児童アンケート「クロームブックを使う学習に、すすんで取り組むことができましたか。」の項目に対して、肯定的な回答の割合を前年度以上にする。

【R4:86.7% R5:80.7% R6:81.8%】 【R7:84.0%】 ○

#### <人材の確保・育成としなやかな組織づくり>

- ゆとりの日を週に1回設定実施する。○

- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を前年度以上にする。

【R3:55.8% R4:56.8% R5:69.1% R6:86.1%】 【R7:77.1%】 ▲

### 3 本年度の自己評価結果の総括(最終)

全校遠足や運動会などの学校行事の中で、学級や児童会で話し合った児童の意見や発想を取り入れ、より楽しく過ごしやすい学校になるように取り組んできた。本年度は、春の遠足として「大阪・関西万博」へ全学年が参加し、貴重な体験をすることができた。また、授業の中においては、数年来取り組んでいる体験的な活動を本年度は「ダンス体験」として全学年で実施し大きな成果をあげることができた。さらに、全学級で「みんな遊び」などを取り入れ、学級活動を充実させてきた。

本校の積年の課題である不登校の問題については、登校する日数を増やせた、登校する時間を早め

ることができた、教室に入れる時間を長くできた等の改善を見せた児童がいる。また、児童用パソコンを使い、オンラインで学級の学習に参加できるようになった児童もいる。しかし、新規不登校児童は昨年と同数であった。「楽しい学校」をめざし取り組みを進めているが、これらの児童に学校の魅力をどう伝えるかが課題である。

#### 【安全・安心な教育の推進】

校内児童アンケートの「学校へ行くのは楽しいですか」の質問の肯定的な回答は89.0%、「友だちの気持ちを考え、よいところを見つけることができましたか」の肯定的な回答は92.0%と昨年度も高水準であったが、わずかに向上できた。「自分にはよいところがあると思いますか」の質問は昨年度より0.7%増の81.0%であり、高い数値になってきている。自己肯定感の低い子が20%弱いることが課題であるが、粘り強く続けている「いいとこみつけ」や「みんな遊び」などの仲間づくりの取り組みによって、自分の良さや友達の良さを見つけ、違いを受け入れられる優しい子どもが育ってきている。

「早寝・早起き・朝ごはん」、「着帽」、「正しい服装」などについては、児童朝会での話、学級担任の声かけ、委員会児童の呼びかけや保護者への啓発等の取り組みを通して、子どもの意識や行動の改善をほめ励ましつつ、学習規律の向上へとつなげていきたい。

一方で、不登校傾向の子どもについては、改善率は35.7%と昨年度より20%弱低下してしまった。今後も家庭訪問等を通した子どもや保護者へのアプローチ、さらに学校が楽しくなるような取り組みの工夫、関係諸機関との連携を迅速かついねいに実施していく。また、友達とのトラブルや、行きしぶりが不登校につながるよう先手を打った対応が当たり前ができるよう教職員同士で声をかけ合いながら互いの意識を高めていきたい。

#### 【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

学力経年調査の結果からは、同一母集団の平均正答率が向上した学年と低下した学年があり、全体では、5.2%程度向上している。校内児童アンケートの「授業はわかりやすく楽しいですか」の項目の肯定的な回答は88.0%で、昨年度と比べ1.3%低下しているが、高い水準で維持できているといえる。本年度も子どもが主体的に調べる学習や、ペア学習・グループ学習等の取り組みを充実させてきたことの成果の現れである。今後もさらに工夫し、主体的に学ぶ意欲を育成していきたい。

また、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」（第5学年）の結果については、男女とも、全国、大阪市平均を上回るもの、下回るものが混在するものとなった。男子では「反復横跳び」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅跳び」で、女子は「握力」「反復横跳び」「20mシャトルラン」「50m走」で全国及び大阪市平均を上回る結果であった。今後、普段の体育科授業の運動量の確保やかけ足、縄跳びタイム等の取り組み、学級での外遊び等をさらに工夫し、運動に関する子どもの興味・関心がさらに高まるようにしていきたい。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

「児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日数の70%以上にする」は79.3%と昨年度より2.0%向上することができた。「1人1台パソコンで理解を深められた」という質問に対する回答は86.1%で1.3%向上、「1人1台パソコンでの学習にすすんで取り組んだ」については、84.0%と2.2%向上できた。端末を扱う学習が児童にとって当たり前のこととして定着してきている。現状、デジタルドリルの問題を解く、インターネットで調べるといったことが中心になっているが、今後は、端末を使ってどのような学習活動ができるかさらに教材研究を深め、児童の知的好奇心や探求心を刺激できるようにしたい。

働き方改革については、今年度も昨年度に引き続いて余剰時数を超えて実施している授業時間を見直し、カリキュラム再構築に取り組んだ。また、地道な業務効率化と会議の精選を実施することができた。教職員の時間外勤務時間については、大阪市平均より少ない水準である。しかし、進んできた減少傾向の下げ止まりがみられるようになってきた。

## 大阪市立大桐小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○ 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上に する。 【R4 81.8% R5:79.1% R6:75.0%】【R7:83.6%】○</p> <p>○ 令和7年度の年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より毎年減少さ せる。【R4:2.9%(21人/727人)R5:3.5%(23人/660人)R6:3.5%(22人/631人)】 【R7:4.6%(27人/581人)】▲</p> <p>○ 令和7年度の年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を毎年増加させ る。【R4:31.3% R5:53.3% R6:55.6%】【R7:35.7%】▲</p> <p>○ 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対し て、肯定的な回答をする児童の割合を前年度以上にする。 【R4:80.5% R5:83.0% R6:84.4%】【R7:84.6%】○</p> <p>○ 令和7年度末の本校児童アンケートで、「学校へ行くのは楽しいですか」の肯定的な回 答の割合を、前年度以上にする。【R4:88.0% R5:88.6% R6:88.4%】【R7:89.0%】○</p> <p>○ 令和7年度末の本校児童アンケートで、「すすんであいさつをしていますか」の肯定的な回 答の割合を、前年度以上にする。 【R3:84.0% R4:84.0% R5:84.6% R6:86.9%】【R7:85.7%】▲</p> <p>○ 令和7年度の年度末の校内調査において、遅刻の割合を前年度より少なくする。 【R4:2.8% R5:2.0% R6:2.2%】【R7:2.8%】▲(1月末時点)</p> <p>○ 令和7年度末の本校児童アンケートで「早寝・早起き・朝ごはんを食べることができてい ますか」の肯定的な回答の割合を前年度以上にする。 【R4:79.5% R5:79.9% R6:76.8%】【R7:79.6%】○</p> <p>○ 令和7年度末の本校アンケートで「スマホやゲームについて、家でのルールを守れていま すか」の肯定的な回答の割合を、保護者・児童ともに前年度以上にする。 【R4:保護者 65%児童 87%】【R5:保護者 68.3%児童 79.9%】【R6:保護者 63.7%児童 86.7%】 【R7:保護者 60.8%↓ 児童 89.4%↑】</p> <p>○ 令和7年度末の本校児童アンケートで、「友だちの気持ちを考え、よいところを見つける ことができましたか」の肯定的な回答の割合を、全学年で前年度以上にする。 【R3:81.2% R4:91.3% R5:91.6% R6:90.8%】【R7:92.0%】○</p> <p>○ 令和7年度末の本校保護者アンケートで、「学校は子どもが助け合って活動できるよう指 導している」の肯定的な回答の割合を、前年度以上にする。 【R3:88.4% R4:87.1% R5:85.6% R6:83.1%】【R7:80.8%】▲</p> <p>○ 令和7年度末の本校児童アンケートで、「自分にはよいところがあると思いますか」の肯定 的な回答の割合を、前年度以上にする。 【R3:61.0% R4:75.7% R5:77.8% R6:80.3%】【R7:81.0%】○</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 全ての児童にとって学校が楽しいと思えるような、特別活動の充実を図る。</p> <p>指標 全学級で「みんな遊び」などを取り入れ、学級活動を充実させる。学期に1回以上は、児童が楽しめる学年行事や学校行事を行う。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 学校・家庭・地域において、あいさつができる児童の育成を図る。</p> <p>指標 学期に1回「あいさつ運動の週」を設ける。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 児童が、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活習慣を確立し、遅刻や欠席を少なくして登校できるよう指導を充実する。スマホやゲームの適切な利用の仕方について児童が考える場を工夫する。また、学校だより、学年だより等を通して保護者へ協力を呼びかける。</p> <p>指標 理由がない場合や気になる理由の欠席・遅刻は朝すぐに電話連絡する。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 特別の教科道徳を中心にして、児童が「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」とする心情をはぐくむことができるように、指導実践の充実を図る。</p> <p>指標 学期に1回は、いじめについて考える学習を行う。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 学校教育全般を通して、児童のよさを引き出す機会を増やす。体験的学習を効果的に取り入れ、振り返りの活動をする。また、自尊感情を高める実践を学活の時間などを活用し進める。</p> <p>指標 学期に1回は体験的な活動を取り入れ、キャリアパスポートなどを活用して振り返りを行う。</p>	A
<p>取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】 友だちのよいところを見つける活動を通して、相互に理解し合える友だち関係を構築させる。</p> <p>指標 全学年で友だちの良いところを見つけられるように取り組む。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スマホの適切な利用について</li> <li>・ 遅刻が多い。</li> <li>・ いじめについて考える日を、学期に1回行っていない。</li> </ul> <p>【取組内容】について</p> <p>① ほとんどの学級で、係が率先して「みんな遊び」を取り組んだ。クラスの雰囲気が良くなり、児童にとって充実した学校生活の一因となった。たてわり班活動でも学期に1回以上児童が楽しめる学校行事を行えた。</p> <p>② 学期に1回「あいさつ運動」の週を設けることができた。しかし、全体を通してみると、あいさつ運動の週だけ意識的に取り組んでいるだけで、それ以外の週になると自分から挨拶をする児童は少ない。</p> <p>③ 連絡がない場合には、職員室から電話連絡をしてもらい、すぐに対応できたのでとても助かった。スマホの使い方や生活習慣の改善については、学校だけでは難しいと思う。</p> <p>④ どんなことがあってもいじめはいけないことは学校アンケートでも高い数値であったが、実際はいじめに繋がる児童の行動が多々ある。2, 3学期はいじめを考える日が設けられていないため、行事もたくさんあることから、考えられていない学期があった。</p> <p>⑤ いろいろな行事の中での体験的学習を通して、児童の達成感を味わわせた。</p> <p>⑥ 帰りの会でクラスの子のがんばりや良いところを見つける活動を取り入れているが、相手のことを思っている行動ができない児童も多い。</p>	

次年度への改善点

【年度目標】について

- ・ スマホの適切な利用に関する啓発を、継続的に続けていく。
- ・ 遅刻にならないように家庭と連携して取り組んでいく。
- ・ いじめについて考える日を、各学期に設ける。

【取組内容】について

- ① 引き続き継続して取り組んでいた。全員がみんな遊びに参加していなかった場合の工夫も必要。
- ② 今後も継続的に指導を行い、あいさつ運動がない週でも、自分から挨拶ができるようにする必要がある。
- ③ 引き続き、職員室と連携して朝の連絡を行っていく。スマホや生活習慣については、保護者の協力が不可欠であり、場合によっては、行政機関とも連携を図っていきたい。
- ④ 2, 3学期にも「いじめについて考える日」を設ける。
- ⑤ 継続して取り組んでいく。
- ⑥ 継続して指導していく。

## 大阪市立大桐小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した  
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>○ 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。 【R4:33.7% R5:32.1% R6:35.6%】 <b>【R7:42.2%】</b> ○</p> <p>○ 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。          &lt;国語:R4= 現6年 96.4%&gt;          &lt;国語:R5= 現5年 95.9% 現6年103.4%&gt;          &lt;国語:R6=現4年 99.3% 現5年 97.6% 現6年103.2%&gt;  <b>&lt;国語:R7=現4年 99.3% → 現5年 99.2% ↑ 現6年102.6% ↓&gt;</b>          &lt;算数:R4= 現6年 96.3%&gt;          &lt;算数:R5= 現5年 96.3% 現6年102.7%&gt;          &lt;算数:R6=現4年 99.7% 現5年 95.6% 現6年101.9%&gt;  <b>&lt;算数:R7=現4年101.1% ↑ 現5年 97.3% ↑ 現6年103.0% ↑&gt;</b></p> <p>○ 令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的な「好き」「どちらかというが好き」と回答する児童の割合を85%以上にする。 【R4:75.8% R5:78.4% R6:84.9%】 <b>【R7:86.7%】</b> ○</p> <p>○ 令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的な「好き」「どちらかというが好き」と回答する児童の割合を前年度以上にする。 【R4:70.7% R5:76.2% R6:69.8%】 <b>【R7:68.2%】</b> ▲</p> <p>○ 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を前年度以上にする。 【R4:68.9% R5:70.4% R6:68.1%】 <b>【R7:67.5%】</b> ▲</p> <p>○ 令和7年度の全国学力学習状況調査における平均正答率の対全国比を、前年度以上にする。 【R4:89.3% R5:94.1% R6:100.4%】 <b>【R7:97.8%】</b> ▲</p> <p>○ 令和7年度の学力経年調査・国語において、「書く能力」領域の正答率を同一母集団で比較し、いずれの学年も昨年度以上か大阪市平均を上回るようにする。          &lt;R4= 現6年33.3%(市52.1%)&gt;          &lt;R5= 現5年41.4%(市57.7%) 現6年76.2%(市49.5%)&gt;          &lt;R6=現4年60.2%(市58.4%) 現5年59.7%(市66.4%) 現6年77.6%(市68.0%)&gt;  <b>&lt;R7=現4年75.8%(市71.5%) ↑ 現5年63.3%(市65.0%) ↑ 現6年70.8%(市61.1%) ↓&gt;</b></p> <p>○ 令和7年度の学力経年調査・算数において、「数と計算」領域の正答率を大阪市平均と比較し、前年度以上か大阪市平均を上回るようにする。          &lt;大阪市平均との差:R4= 現6年-9.5&gt;          &lt;大阪市平均との差:R5= 現5年 6.9 現6年 7.2&gt;          &lt;大阪市平均との差:R6=現4年-6.0 現5年-7.5 現6年 6.5&gt;  <b>&lt;大阪市平均との差:R7=現4年 4.0 ↑ 現5年-4.9 ↑ 現6年 6.5 →&gt;</b></p> <p>○ 令和7年度末の本校児童アンケートで、「授業はわかりやすく楽しいですか」の肯定的な回答の割合を前年度より向上させる。 【R3:84.0% R4:89.5% R5:87.3% R6:89.3%】 <b>【R7:88.0%】</b> ▲</p>	B

<p>○ 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校で出された宿題以外に、自分で計画を立てて学習（予習・復習などを）していますか」と「読書は好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>宿題以外に学習&lt;R4= 現6年35.7%&gt;  &lt;R5= 現5年49.5% 現6年34.6%&gt;  &lt;R6=現4年54.7% 現5年32.6% 現6年30.1%&gt;  &lt;R7=現4年37.3%↓ 現5年30.4%↓ 現6年25.2%↓&gt;</p> <p>読書&lt;R4= 現6年79.4%&gt;  &lt;R5= 現5年73.1% 現6年76.6%&gt;  &lt;R6=現4年57.7% 現5年69.8% 現6年67.0%&gt;  &lt;R7=現4年59.6%↑ 現5年59.5%↓ 現6年54.4%↓&gt;</p> <p>○ 令和7年度末の本校児童アンケートで、「楽しんで運動したり、外で元気に遊んだりしていますか」の肯定的な回答の割合を、全学年で前年度以上にする。  【R4:87.2% R5:87.3% R6:80.3%】 【R7:81.2%】 ○</p> <p>○ 令和7年度末の本校児童アンケートで、「給食前や休み時間、そうじの後の手洗いをすすんでしていますか」の最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を、前年度以上にする。  【R3:71.3% R4:68.5% R5:62.0% R6:66.5%】 【R7:66.7%】 ○</p> <p>○ 令和7年度末の本校児童アンケートで、「給食は自分の食べられる量を楽しく食べていますか」の肯定的な回答の割合を、85%以上にする。  (【R3:85.6% R4:87% R5:84.8%】 ←「すききらいをしないで給食を食べていますか」)  【R6:92.2%】 【R7:93.3%】 ○</p>	
--	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】  主体的・対話的・深い学びとなる活動を授業の中で、積極的に取り入れるとともに、学習指導の方法を工夫することで、児童の学力の向上を目指す。</p> <p>指標 主体的・対話的・深い学びとなる活動を、各学習の各単元で取り入れる。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】  高学年において教科担任制を導入することにより、より質の高い授業づくりに努め、児童の学習意欲を高めたり、多くの目で児童一人ひとりの良さや課題を把握したりしながら指導や支援が進められるようにする。</p> <p>指標 高学年において週2コマ以上、教科担任制を導入し効果的に指導や支援を行う。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】  自主学習習慣の確立を目指す。</p> <p>指標 高学年児童において週に1回以上は、自主学習ノートに取り組む。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】  朝の学習タイムを設定し、基礎学力の向上を図る。読書週間を取り入れるなどして児童が読書に親しめるようにする。</p> <p>指標 国語・算数の課題、読書を朝の学習タイムで、週3回実施する。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】  体育の授業を工夫したり、学級活動や休み時間などで児童が楽しめる体を動かす活動を積極的に取り入れたりとすることで、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツに親しめるようにする。</p> <p>指標 体育の授業を含め、週に5回は、児童が体を動かすことを楽しめる活動を取り入れる。</p>	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】  健康強調週間を設けて、こまめな手洗いの習慣を身につけて、身の回りを清潔に保てるようにする。</p> <p>指標 健康強調週間を年3回実施する。</p>	B
<p>取組内容⑦【基本的な方向5 健やかな体の育成】  学級指導を中心に栄養指導、食育指導に取り組む。</p> <p>指標 毎月1回「食育の日」を設け、児童の意識化を図る。学校評価アンケートを実施し、児童・保護者の意識を把握する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・ 遅刻が多い児童がいる。
- ・ 自主学習への意欲の差がある。

【取組内容】について

- ① 積極的に主体的・対話的・深い学びになるように活動に取り組んできた。その結果、ペアや班での交流は活発になった。しかし、全ての児童の学力が向上するまでには至っていない。
- ② 授業を繰り返すことで、より質の高い授業を行うことができた。また学年全体の児童を複数人の教員でみるができるため、見落としがちな児童へも支援していくことができた。
- ③ 計画的に週1回以上に取り組むことができ、自主学習の習慣が定着してきた。また、自主学習ノートを教室や校内掲示板に掲示することで学習意欲が高まった。しかし、個人差も大きく、宿題を提出するだけで精一杯な児童もいた。
- ④ 朝学習に取り組むことで基礎学力の向上の一助になった。しかし、朝の準備に時間がかかり実施できない日があったり、遅刻して取り組めない児童がいたりした。
- ⑤ どの学年も、体育科学習では体力がつくような導入を工夫したり、学級活動や休み時間などに児童が楽しめる活動を積極的に取り入れるよう意識したりして取り組むことができた。  
休み時間には、低・中学年では多くの児童が運動場に出て遊ぶ姿が見られるようになったが、高学年になると、外遊びをする児童に個人差も出てくるようになるため、今年度、代表委員会による「大縄チャレンジ」の取り組みが体を動かすきっかけになった。
- ⑥ 健康強調週間中は、手洗いでだけでなく、外遊び、給食などに対する意識は高まった。児童アンケートで「給食前や休み時間、そうじの後の手洗いをすすんでしていますか」の最も肯定的な回答が67%となり前年度より少し向上した。保健委員会の取り組みや学級での地道な声掛けも効果があったと考えられる。今後の課題としてハンカチを携帯するよう指導が必要である。
- ⑦ 「食育の日」の給食委員会による放送や食に関するクイズの掲示を通して完食しようとする意識につながっていた。各学級において、自分の食べられる量に調整したり、栄養指導で学習したことを振り返って給食について考えたりして、食育指導に取り組むことができた。

次年度への改善点

【年度目標】について

- ・ 家庭と連携をとりながら、取り組みを進めていく。

【取組内容】について

- ① 学力向上に向けて、単元の内容に合わせて指導法の工夫をしていく必要がある。
- ② 行事により時間割が変更になると授業時間の調整が必要になることがある。事前に調整していくようにする。今後も継続して指導を進めていく。
- ③ 個人差が大きいいため、苦手な児童への手立てが必要。取り組みやすい内容を紹介していくとよい。
- ④ 引き続き指導を進めていく。遅刻の多い児童へは家庭へ働きかけていく。
- ⑤ 来年度も「大縄チャレンジ週間」「かけ足週間」などの外で体を動かす機会を設けるとよい。
- ⑥ 日常的に手洗いが習慣化されるよう引き続き指導を進めていく。  
ハンカチをいつも携帯できるように、学校全体で統一した指導（朝の会、心の天気を入力するときに確認するなど）をするとよい。
- ⑦ 食については、「食育の日」だけに限らず、毎日の給食の時に献立や食べ物について、マナーなど、児童が食に興味、関心をもてるような話をするなど、引き続き指導を進めていく。

## 大阪市立大桐小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>&lt;教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進&gt;</p> <p>○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数の75%以上にする。 【学習者用端末 日別活用率の平均 R5:69.6% R6:77.3%】 <b>【R7:79.3%】</b> ○</p> <p>○ 令和7年度の本校児童アンケート「クロームブックを使う学習で、理解を深めることができましたか。」の項目に対して、肯定的な回答の割合を前年度以上にする。 【R4=90.9% R5:84.8% R6:84.8%】 <b>【R7:86.1%】</b> ○</p> <p>○ 令和7年度の本校児童アンケート「クロームブックを使う学習に、すすんで取り組むことができましたか。」の項目に対して、肯定的な回答の割合を前年度以上にする。 【R4=86.7% R5:80.7% R6:81.8%】 <b>【R7:84.0%】</b> ○</p> <p>&lt;人材の確保・育成としなやかな組織づくり&gt;</p> <p>○ ゆとりの日を週に1回設定実施する。○</p> <p>○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を前年度以上にする。 【R3:55.8% R4:56.8% R5:69.1% R6:86.1%】 ○ <b>【R7:77.1%】</b> ▲</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>毎日、「心の天気」を朝の会の時間に入力させることで、児童の細やかな変化に気づき指導に活かす。</p> <p>指標 毎日、「心の天気」を朝の会の時間に入力させる。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>朝の学習や授業の中で、学習者用端末などのICT機器を効果的に活用して指導を行う。</p> <p>指標 ICT機器活用年間計画の内容に沿って、朝の学習や授業の中で学習者用端末などのICT機器を1日1回以上活用する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>家庭学習において、学習者用端末を効果的に取り入れる。</p> <p>指標 家庭学習において、学習者用端末を活用した学習を週1回実施する。</p>	C
<p>取組内容④【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教職員全体で、業務や取組にかかわる作業等の効率化を図る。</p> <p>指標 ゆとりの日を週に1回設定・実施する。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教職員全体で、業務や取組にかかわる作業等の効率化を図る。</p> <p>指標 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を前年度以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容】について

- ① 「心の天気」の入力を毎日呼びかけることで、朝の時間に入力することが定着している児童が多くなった。また、連絡帳のデジタル化によっても、確認する際に入力を促す表示がでるため、入力忘れが減った。入力できている児童が増えたこともあり、「心の天気」を活用した細かな変化への気づきや指導ができる機会も増えた。
- ② デジタルドリルやタイピング練習ソフトの活用により、1人1台端末の活用が定着してきた。また、各学年での指導者の工夫により、各教科の学習で1人1台端末を使うことのできる場面を模索してきたので、その特性を生かせる場面で活用できるようになってきた。
- ③ 少なくともデジタルドリルを宿題として設定するように意思統一を図ってきたが、学級（担任）による取り組みの度合いに差があり、指標通りに取り組むことができていない学年・学級があった。自主学习等の調べ学習で活用することを勧めている学年・学級もあるが、学習者用端末（1人1台端末）を使用しているかどうかは児童により差があった。
- ④ ゆとりの日を週1回以上実施することができた。教職員全体で、業務や取組にかかわる作業等の効率化を図り、ゆとりの日を意識して業務に取り組めた。ただ、業務・取組がどのように効率化されたか、具体的な検証が求められる。
- ⑤ 業務の分散や簡易化によって、それぞれの負担は減っている。しかし、基準1を満たす教員の割合が8割台から7割台に下がった。

次年度への改善点

【取組内容】について

- ② 引き続き、1人1台端末を活用できる場面や使い方を共有し、より効果的に利用できるようにしていく。
- ③ 学習者用端末を家庭学習で活用することの有用性を改めて見直すことにより、指導者側の意思統一を確かなものにする。
- ④ 継続してゆとりの日を意識し、分担できる業務は振り分けて取り組めるようにする。
- ⑤ 業務の分担やトラブルへの対応を組織的に取り組むなど、一部の教員に業務が集まらないようにする。